２０２５年度（令和７年度）学校評価自己評価表

誠之中学校区	校番２２	福山市立誠之中学校
	最終更新日	2026年（令和８年）2月1日

Ⅰ　福山市

ミッション　福山に愛着と誇りを持ち，変化の激しい社会をたくましく生きる子どもを育てる。
ビジョン　各中学校区・学校が、資質・能力の育成に向けた特色ある教育課程を編成し，日々の授業を中心として評価・改善を進めながら，子どもたちの確かな学びを実現している。

Ⅱ　中学校区

前年度学校関係者評価の主な内容

分析データをもとに、授業改善に向け、校区で取り組んでいることが伺える。
教職員が一層やりがいを持ち、生徒個々の学習意欲を醸成できるような更なる取組を期待する。

児童生徒の現状

- 地域から学び、理解し、つながろうとしている子どもが増えている。
- 相手意識を持った行動ができる生徒が増えてきている。
- 基礎学力の定着が不十分な児童・生徒が一定数いる。

育成する力 資質・能力	主体性			
	知識・技能	思考力・判断力	表現力	自立・共生
めざす子ども像 (義務教育修了時の姿)	自らに誇りを持ち、夢と目標に向かって頑張る児童生徒			
中学校区として統一した取組等	研究主題：自ら考え学ぶ教育活動の創造 校区共通のSDGｓ：11 住み続けられるまちづくり			

Ⅲ　自　校

ミッション

地域や保護者から信頼され、校区内の小学校から多くの児童が夢や希望を持ちながら入学したいと（学びたい）と思える中学校の創造

学校教育目標

自ら学び，自ら考え，たくましく生き抜く生徒の育成

現　状

＜児童生徒＞
- 多くの生徒は、決まりを守り、落ち着いた学校生活を送っているが、一部の生徒においては、生活習慣が不安定となっている。
- 自分の思い・目標を持ち表現できる生徒が増えてきている。
- 将来を見据えて、粘り強く取り組みを継続できる生徒はまだ少ない。
- 長期欠席生徒が多い。

＜授業＞
- 落ち着いて学習を行っている生徒は多いが、知識・技能の定着は、まだ不十分である。
- 学ぶ楽しさ（自分に見える世界の広がり）の実感が不十分なため、主体的な学びにつながっていない。

育成する力 資質・能力		主体性			
		知識・技能	思考力・判断力	表現力	自立・共生
めざす子ども像	１年	自ら課題を見つけ、解決に向けて情報を収集し、これまで学習したことを使って、自分の考えを説明することができる。			
	２年	課題解決に必要な情報を選択・分析して解決方法を見出し、仲間と共に解決に向けて取り組むことができる。			
	３年	課題を分析した結果とこれまで学習した内容を基に、他者と協力して解決方法を見出し、解決することができる。			
研究	教科等	国語、社会、数学、理科、音楽、美術、保体、技家、英語、総合的な学習の時間			
	主題・内容等	主題　生徒の姿と量的データに着目した授業改善 内容：学びに関する「見通し」と「見取り」の精度を高める。 学期ごとに授業・意識を検証し、指導・支援等の授業改善に生かす。			
めざす授業の姿		自己存在感・共感的な人間関係・自己決定の場を生かした授業。 ・自分の力に自信を持ち、自己の成長や学ぶ楽しさを実感できる課題設定のある授業 ・互いの考えを交流する中で、多様な価値観を認め合い、自分の考えを深める授業 ・「教える」ことと「学ぶ」こと、「指示する」ことと「自分で決める」こと等バランスを考えた授業			

福山市立誠之中学校

Ⅳ　目標・取組及び評価指標等の設定と評価

年目	中期経営目標	重点	分類	短期経営目標	目標達成に向けた取組	評価指標	中間評価（10月1日） □指標に係る取組状況	プロセス評価	達成評価	改善方策	最終評価（2月末） □指標に係る取組状況 ◎短期(中期)経営目標の達成状況	プロセス評価	達成評価	総合評価	次年度の改善方策
5	学習に意欲的に取り組む生徒の育成	★	継続	「子ども主体の学び」を中心に据えた授業の全教室展開 【知】【思・判】【表】【主】	•分析データを活用した授業改善 • 生徒指導三機能を生かした授業づくり	• 標準学力調査 昨年度より改善 • 生徒アンケート「自分の考えを深めたり広げたりしている」85%以上	・4月に行った標準学力調査において多くの教科全国平均を下回ったが、昨年度同時期より改善が見られる教科もあった。 •生徒アンケートで「自分の考えを深めたり広げたりしている」の肯定的回答は 88%(昨年同時期に比べ＋4%上昇)であった。	3	3	•標準学力調査等を各教科分析し全教科授業づくりポートフォリオ作成。10 月に相互参観週間を実施し教材研究や授業改善を積極的に行い日々につなげる。 ・12 月に実施する標準学力調査で取組の検証を行う。	・全員面談、相互参観週間を実施し日々の授業改善に向け意識することができた。 ・12月に行った標準学力調査において2年生数学が全国平均値を上回った。昨年度同時期より改善が見られる教科もあった。 •生徒アンケートで「自分の考えを深めたり広げたりしている」の肯定的回答は88%。	4	4	4	•生徒のつまずきから分析を行う授業改善サイクルの質を高めていく。 •家庭学習時間やスマホ利用時間等の生活習慣の見直しに向けた取組を仕組んでいく。
5	すべての生徒が元気で登校する学校づくり	★	継続	多様な学びの場と安心・安全な学級集団づくり 【自・共】	•多様性を認めることのできる特別活動 • 学級集団作り校内研修	•長期欠席生徒数 前年度より減 •生徒アンケート「自分の考えは認められている」85%以上	・長期欠席生徒数は前年度より減少した。（6人⇒4人） ・1学期末の生徒アンケートで肯定的回答は88%であった。	3	4	・定期的に支援委員会を行い，SC・SSWや外部機関と連携し，組織的に対応する。 •生徒が活躍できる場を多く設定する。	・長期欠席生徒数は前年度より増加した。（+10 人） ・2 学期末の生徒アンケートで肯定的回答は89%であった。 ・定期的に支援委員会を行えた。	3	3	3	•中学校内における縦割りでの取り組みや校区で共通認識をもって仕組んでいく。 ・リーダー育成を行い、生徒主体での取り組みを増やす。
6	教職員が元気で、生徒に向き合える学校づくり		継続	校内研修及びICTの有効活用よる業務改善	•5時間授業の日かつ部活動休養日を原則毎週確保	•平日部活動休養日 週1回実施率 100%	・校内研修を計画的に実施できている。（4回） ・平日部活動休養日週1回達成率 95%（19 回/20 週）	4	4	・継続的に計画に基づいた研修を実施する。 ・進行管理を適切に行い、年度末までの部活動休養日を計画的に設定する。	・年間計画に沿った研修が実施できている。（6 回） ・平日部活動休養日達成率 96% (24 回/25 週)	4	4	4	・各分掌での業務内容や分担方法等を見直す。 ・5時間授業日を設定する日を厳選する。 ・校務支援システムの活用による業務改善。

※自己効力感：自分がある状況において結果を出すために適切な行動を選択し、かつ遂行するための能力を自分が持っているかどうか認知するための言葉のこと。

［プロセス評価の評価基準］

評点	評価基準
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が十分に図られた。
4	取組の目的に対する共通理解が認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が概ね図られた。
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決がある程度図られた。
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難く、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。
1	取組の目的に対する共通理解が認められず、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。

［達成評価の評価基準］

評点	評価基準
5	目標を大幅に達成し、十分な成果をあげた。
4	目標を概ね達成し、望ましい成果をあげた。
3	目標をある程度達成し、一定の成果をあげた。
2	目標を下回り、成果よりも課題が多かった。
1	目標を大きく下回り、成果が認められなかった。

［総合評価の評価基準］

評点	評価基準	
5	１００％以上の達成度	十分に目標を達成できた。
4	８０％以上１００％未満の達成度	概ね目標を達成できた。
3	６０％以上８０％未満の達成度	ある程度目標を達成できた。
2	４０％以上６０％未満の達成度	あまり目標を達成できなかった。
1	４０％未満の達成度	目標を達成できなかった。